

歴史まち歩き

17 武家屋敷 筒井・黒門

コース【地下鉄車道駅 ▶ 徳川園】

武士由来の地名、尾張徳川家菩提寺の建中寺、藩政時代の面影を偲ばせるまち

元禄8年(1695年)、尾張藩2代目藩主光友自らの造営で13万坪という大きな隠居所を造り、移り住む等この地は尾張徳川家とは深い縁があります。尾張徳川家に仕えた下級武士も多く住んだ場所であり、住人の職業が地名の由来になっている場所が多く残っている場所でもあります。

1 物部神社

石神堂といわれ、物部氏の祖・宇摩志麻遲命(うましまじのみこと)が祀られています。神武天皇が当地を平定した時、国を鎮めたという大石をご神体としています。

2 佐々邸跡

大正13年、尾張佐々家12代成吉氏によって建てられた、当時個人では珍しい鉄筋コンクリート造2階建です。尾張佐々家の祖信宗は、信長に仕え重臣として活躍した成政の末弟です。

3 情妙寺

日蓮宗。家康の菩提のため、位牌所として慶安年中(1648~1652年)茶屋長吉が創建しました。御朱印船貿易の様子を描いた「茶屋新六交趾渡航図巻」は県指定文化財。また、境内には芭蕉に師事した日陽和尚の水鶏塚や交趾国王から送られた白衣の観音画像があります。

4 建中寺

浄土宗。慶安4年(1651年)二代藩主光友が、藩祖義直の菩提を弔うため創建。総門・三門は当時のものです。本堂は天明7年(1787年)の再建ですが、木造の本堂としては市内で最大のもの。旧名古屋商業会議所本館として建てられた徳興殿は、国の登録有形文化財。徳川家霊廟は県指定文化財。また、総門・御成門・本堂・経蔵・開山堂・源正公廟などの建造物は市指定文化財です。

黒門町

自然院の本尊は眼瞶上人が京都黒谷からもちかえった阿弥陀如来立像であり、誰いうとなくその門前を黒谷門前と呼ぶようになりました。これが短くなって黒門町となったといわれます。名古屋城二の丸の黒門警護に当たった御持筒(おてづつ・弓)組(黒門組・御黒門ともいう)同心の屋敷地であったからの説もあります。もとは春日井郡であったが、明治13年(1880年)に名古屋区にはいりました。



5 吉田小路(枳形区画)

百人町は百人町同心の住宅があったところ。防衛上の配慮から、敵の侵入を防ぐため道を鍵の手に曲げて見通しをさえぎる構造になっています。ここにある碑には、20mほど東に行った所に住んでいた「吉田孟辰氏の寄付により此の道を作る」とあります。

6 徳源寺

臨済宗妙心寺派。織田信雄が創建。最後の藩主徳川慶勝が修行道場を開設しました。銅製約5mの涅槃像(明治末期建立)があります。後部に五百羅漢を祀っている開山堂には川合玉堂の「雲龍図」が天井画に。修古館には名古屋場所九重部屋が入ります。

7 覚音寺

真宗大谷派。明治期の仏教界にあって「今親鸞」と称された清沢満之は、この寺で得度し勉強しました。南西方寺の娘と一緒にりましたが、真宗大学学監となった41歳で病没。

城番町

江戸時代、城代の同心と御深井丸の番人が住んでいたことから、この名称がつけられました。同心が武士の職名の一つになったのは戦国時代からですが、与力と同じで一前ではなく、家に付属する武士であり、のちに騎兵部隊と与力、歩兵を同心と呼ぶようになりました。さらに江戸時代には与力の支配に属し、雑務を扱う吏員のことを呼ぶようになりました。区画は北城番小路・南城番小路、のち明治11年(1878年)養老小路を合わせて城番町と決めました。この養老小路は別名「オカヒゴロ」とも呼び、同心の高年者の功労あるものを選び、御深井丸の番に当たらせて住ませたといえます。

11 蓬左文庫

尾張徳川家の蔵書を受け継ぐ文庫。戦後、名古屋市が購入しました。この蔵書は家康の死後、御三家の「駿府御譲本」が始まりとなっています。

10 徳川園(庭園)

尾張徳川家二代藩主光友の大曾根下屋敷として造営されました。当時の面積は132,100坪でした。明治維新などを経て明治22年から尾張徳川家の邸宅となり、昭和6年、義親氏により名古屋市へ寄付され、一般公開されました。昭和20年、戦火によって黒門回りを残すのみとなりましたが、平成16年11月に、池泉回遊式の大庭園、徳川園として開園しました。

9 徳川美術館

尾張徳川家に伝わった大名道具を展示・公開しています。19代徳川義親の寄付によって昭和6年に創設された徳川黎明会が運営している私立の美術館で昭和10年に開館しました。

8 黒門(徳川園)

明治33年に完成した尾張徳川家の邸宅の遺構。昭和20年の大空襲による焼失を免れた数少ない遺構であるとともに、武家屋敷があったという面影が感じられます。